

2015年12月16日

ザンビアに暮らしてみて

青年海外協力隊 平成25年度3次隊 東 達也

任地：ムコンチ（中央州） 職種：理科教育

こんにちは。青年海外協力隊としてザンビアに派遣されている東達也です。

長いようで短かったザンビアでの2年間の生活がもうすぐ終わろうとしています。ザンビアを離れることに寂しさを感じます。初めて海外で“暮らす”ということは、私が想像していたものよりも楽しく、面白く、また時には辛くなることもありました。日本で生活をしていた時よりも激しく笑い、時には激しく怒ったりと喜怒哀楽を激しく表現するようになったように思います。私の体験



したザンビアでの暮らしについて紹介をさせていただきます。

任地について

私の任地は首都ルサカから北東へ140kmほど向かった田舎の村ムコンチというところで生活をしていました。ムコンチへ向かうには地方都市カブエを経由して向かうのですが、カブエからムコンチへと続く50km程の道のりはほとんど舗装されていません。そのためミニバスで移動をする際には、乾季には全身砂まみれになり、雨季には車が弾むことによって天井へ頭をぶつけることもしばしばです。ムコンチへ通る途中では野菜を売っている地域があり、そこでバスが止まると村人が一斉にミニバスに群がってきて野菜を売ろうと一生懸命売り込みをします。ムコンチでは買えない野菜も買える



ためとても重宝しています。

ムコンチの周りは畑が広がりとてもどかな

我先に野菜を売ろうとするおばちゃんたち

ところにあります。田舎といえども日常生活に必要な





ものはある程度は買うことができます。マーケットでいつも野菜を売るおばちゃんたちは現地語で挨拶をするといつもニコニコしながら挨拶を返してくれます。買い物をする際には毎回のようにおまけをくれます。バセラ（おまけ）ちょうだいというより一層嬉しそうにおまけをくれます。マーケットの人だけではなく任地の人たちはとてもフレンドリーです。

ザンビアの日常

ザンビアの人の朝はとても早いです。彼らは仕事や学校に行く前には必ず水浴びをして体をきれいにし、身なりをきれいに整えてから学校やそれぞれの職場へ向かいます。ムコンチには舗装道路はないので砂道を歩くことになります。少し歩くと靴は砂埃のせいで白くなります。それでも彼らは毎朝靴をピカピカに磨き学校へやってきます。靴が汚れているのを確認するや手持ちのブラシやハンカチでマメに靴を磨いています。

彼らはとてもおしゃべりが大好きで同僚は色々なところでおしゃべりをしています。彼らのお気に入りには学校にあるマンゴーの木の下です。その木のあるところを見るとだいたいどんな時でも同僚が集まりおしゃべりをしています。時には穴に石をおいて陣取り合戦のようなボードゲームをして楽しんでいる時や和気あい



ローカルのゲームで遊ぶ大人たち

あいとトランプのゲームをしていることもあります。

朝や夕方には主に子ども達が食事や入浴のための井戸水を汲むために井戸の周りに集まります。小さい体で大きなバケツ一杯の水を頭に軽々とのせて一生懸命に運んでいるのに、時にはバケツの水が顔にこぼれているのにも関わらず一生懸命運んでいる子どももいました。井戸の周りはコミュニティのひ



井戸に集まる人たち

とつでもあり、おしゃべりをしてそれぞれの順番が来るのを待っています。私もこの井戸へほぼ毎日水を汲みにいき生徒達とのおしゃべりを楽しんでいました。

ザンビアの独立記念日

10月24日はザンビアの独立記念日です。ザンビアには大統領の他にも部族の長であるチーフと呼ばれる人たちがいます。独立記念日には村の大半の人たちがパラスと呼ばれるチーフの家に向かい独立記念日のお祝いをします。パラスはムコンチから車で30分ほど行ったところにあります。周りには目立つ建物は特になく、林を切り開いたようなところにある小さな集落という感じでした。パラスへ入ると上半身裸で白いペイントをしたガードのような人たちが手作りの槍や弓を持って周りを歩いていた。最初は彼らの姿に恐怖を感じていたのですが、



パラスにいたガード達

話をしてみると中身はいつもよく見るザンビア人。ニコニコしながら話しかけてくれ、快く写真を撮らせてくれました。見た目とオーラがとても強かったこともあり拍子抜けしてしまいましたが。



パラスで会ったボランティアとの一枚

祭典が始まるとのことでしたが、なかなか始まらず待つこと5時間。チーフが家の裏の祠のようなところで人の頭蓋骨のようなものを使った儀式から始まりました。全てが現地語で行なわれていたためどのような目的でやられていたかは分からなかったです。その儀式が終わると、祭典の会場へチーフが移動を始

祭典が始まるとのことでしたが、なかなか始まらず待つこと5時間。チーフが家の裏の祠のようなところで人の頭蓋骨のようなものを使った儀式から始まりました。全てが現地語で行なわれていたためどのような目的でやられていたかは分からなかったです。その儀式が終わると、祭典の会場へチーフが移動を始



ダンスの披露



神輿のような物に乗って登場するチーフ

めました。歩いて向かうのかと思いきやチーフは神輿のようなものに乗って村民に囲まれながら会場へと向かいました。チーフが会場へと着くと祭典が始まり、村民やうちの学校の生徒たちによる歌や踊りのだしもの、チーフ自らがくわを持ち何らかの儀式を行っていました。おそらく雨季に育てるメイズの豊作を祈るものなのだと思います。独立記念日は普段の生活とはまた違うザンビアを体験出来たとてもいい機会でした。

おわりに

私にとってザンビアでの2年間は多くのザンビア人に支えてもらったおかげもあって刺激的でとても充実した日々でした。時にはイライラすることを通して、彼らとの文化の違いを肌で感じることもできました。帰国を目の前にしてザンビアが好きだと感じられるのは今まで出会ってきた人々のおかげのように感じます。ザンビアでの2年間の日々は一生忘れることはないでしょう。

これからも、日本とザンビアの絆がより一層深まっていますように！



サービス精神旺盛なガード達と